

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社丹羽鉄工所 額田 第2工場	階数	地上2F
建設地	愛知県岡崎市	構造	S造
用途地域	用途地域、防火地域:指定なし	平均居住人員	15 人
気候区分	6地域	年間使用時間	6,120 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年10月 予定	評価の実施日	2017年3月28日
敷地面積	6,933 m ²	作成者	加藤俊英
建築面積	2,982 m ²	確認日	2017年3月28日
延床面積	3,132 m ²	確認者	加藤俊英

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	71%
③上記+②以外の	71%
④上記+	71%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア = 2.6**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.3

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 3.3**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>4.1</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>3.0</p>	<p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>20.3 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.0</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p>	<p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	全体
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音		うるさは「特に気にならない」レベル		-	-	-	-	-
1.2 遮音				-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能				-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-
1.3 吸音				-	-	-	-	-
2 温熱環境								
2.1 室温制御				-	-	-	-	-
1 室温				-	-	-	-	-
2 外皮性能				-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-	-
2.2 湿度制御				-	-	-	-	-
2.3 空調方式				-	-	-	-	-
3 光・視環境								
3.1 昼光利用				-	-	-	-	-
1 昼光率				-	-	-	-	-
2 方位別開口				-	-	-	-	-
3 昼光利用設備				-	-	-	-	-
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-
1 昼光制御				-	-	-	-	-
3.3 照度				-	-	-	-	-
3.4 照明制御				-	-	-	-	-
4 空気質環境								
4.1 発生源対策				-	-	-	-	-
1 化学汚染物質				-	-	-	-	-
4.2 換気				-	-	-	-	-
1 換気量				-	-	-	-	-
2 自然換気性能				-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮				-	-	-	-	-
4.3 運用管理				-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-	-
2 喫煙の制御				-	-	-	-	-
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-	-
1 広さ・収納性				-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画	独自			-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-	-
1 広さ感・景観				-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-	-
3 内装計画				-	-	-	-	-
1.3 維持管理				-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計				-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震				3.0	0.52	-	-	3.0
1 耐震性				3.0	0.48	-	-	-
2 免震・制振性能				3.0	0.80	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.20	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数				2.7	0.33	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②			3.0	0.23	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				2.0	0.23	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		排気ダクトにガルバリウムダクトを採用 上位2種B以上、管端コブあり		3.0	0.09	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				4.0	0.08	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				4.0	0.15	-	-	-
2.4 信頼性				2.0	0.23	-	-	-
1 空調・換気設備		分散化		3.4	0.19	-	-	-
2 給排水・衛生設備				4.0	0.20	-	-	-
3 電気設備	②			3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備		通信手段の多様化		4.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり				3.2	0.48	-	-	3.2
1 階高のゆとり				3.4	0.31	-	-	-
2 空間の形状・自由さ		1F:3.93m		5.0	0.60	-	-	-
3.2 荷重のゆとり				1.0	0.40	-	-	-
3.3 設備の更新性				3.0	0.31	-	-	-
1 空調配管の更新性	②	スペース確保		3.3	0.38	-	-	-
2 給排水管の更新性				4.0	0.17	-	-	-
3 電気配線の更新性				3.0	0.17	-	-	-
4 通信配線の更新性				3.0	0.11	-	-	-
5 設備機器の更新性		スペース確保		3.0	0.11	-	-	-
6 バックアップスペースの確保				4.0	0.22	-	-	-
				3.0	0.22	-	-	-

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q3 室外環境(敷地内)										
1 生物環境の保全と創出	独自③	3.0	0.30							3.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④	2.0	0.40							2.0
3 地域性・アメニティへの配慮										
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④	2.0	0.30							2.0
3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50							
LR 建築物の環境負荷低減性										
LR1 エネルギー										
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIm=								
2 自然エネルギー利用										
3 設備システムの高効率化			4.0	0.60						4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEIm=0.4	4.0	1.00						
集合住宅の評価(3c)										
4 効率的運用			3.0	0.40						3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00						
4.1 モニタリング			3.0	0.50						
4.2 運用管理体制			3.0	0.50						
集合住宅の評価										
4.1 モニタリング										
4.2 運用管理体制										
LR2 資源・マテリアル										
1 水資源保護										
1.1 節水			3.4	0.15						3.4
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		節水便器	4.0	0.40						
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.67						
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.33						
2 非再生性資源の使用量削減										
2.1 材料使用量の削減			3.1	0.63						3.1
2.2 既存建築躯体等の継続使用			2.0	0.07						
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.25						
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.21						
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-						
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	② 独自	躯体と仕上材は容易に分別可能	4.0	0.25						
3 汚染物質含有材料の使用回避										
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	1.00						3.0
3.2 フロン・ハロンの回避			-	-						
1 消火剤			-	-						
2 発泡剤(断熱材等)			-	-						
3 冷媒			-	-						
LR3 敷地外環境										
1 地球温暖化への配慮										
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2概算値:71%	4.1	0.33						4.1
2 地域環境への配慮										
2.1 大気汚染防止			2.7	0.33						2.7
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.25						
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.0	0.50						
1 雨水排水負荷低減	独自		4.0	0.25						
2 汚水処理負荷抑制			-	-						
3 交通負荷抑制	独自	駐車場の確保	3.0	0.33						
4 廃棄物処理負荷抑制		分別回収設備の設置	5.0	0.33						
4 廃棄物処理負荷抑制			4.0	0.33						
3 周辺環境への配慮										
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			2.7	0.33						2.7
1 騒音	独自		3.0	0.40						
2 振動	独自		3.0	1.00						
3 悪臭			-	-						
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40						
1 風害の抑制			3.0	0.70						
2 砂塵の抑制										
3 日照障害の抑制			3.0	0.30						
3.3 光害の抑制			1.6	0.20						
1 屋外照明及び屋内照明の立ち上り光への対策			1.0	0.70						
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30						

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

株式会社丹羽鉄工所 額田 第2工場棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.1	0.10	
② 資源の有効活用				3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.17	外構緑化:20.27%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	ライフサイクルコストに配慮している。
Q1 室内環境	評価対象外
Q2 サービス性能	階高にゆとりを持たせています。 空調、給排水配管の長寿命化を図っています
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内の通風が確保できるような建物レイアウトとしている。
LR1 エネルギー	LED照明の採用
LR2 資源・マテリアル	路盤にはリサイクル材を使用
LR3 敷地外環境	廃棄物の分別を行い、ストックヤードを確保。
その他	注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。